被災地派遣レポート＜第８０回＞

下水道局（東京都下水道サービス（株）派遣）　小泉　健仁さん

１．現地の状況

H24.4.1～H25.3.31 までの 1 年間、岩手県廃棄物特別対策室へ配属され、派遣業務を行ってきました。名前のとおり、災害廃棄物（がれき）の処理を担当する部署であり、私はその中でも特に他の自治体へ処理をお願いする広域処理という業務を主に行ってきました。

岩手県の災害廃棄物の推計量は約 525 万ｔであり、私が着任するまでの段階（H23 年度末）で処理数量は約 51 万ｔ。帰任時（H24 年度末）の処理数量は約 204 万ｔであり、派遣中の 1 年で 150 万ｔあまり、率にして約 30%進捗したことになります。

	災害廃棄物処理数量	処理割合
H23 年度末	514,300ｔ	9.8%
H24 年度末 （うち広域処理量）	2,039,600ｔ （124,400ｔ）	38.8% （2.4%）
H24 年度中進捗	1,525,300ｔ	29.0%

この災害廃棄物処理業務はH25 年度末までに完了することとしており、現在も期限までの処理完了を目指して業務は続いています。私としては、道半ばで業務を離れることとなってしまったのは残念でした。

岩手県大槌町の災害廃棄物仮置場（H25.1 月時点）　　同所（H25.4 月時点）　※両写真とも環境省ＨＰより引用

２．具体的な業務内容

災害廃棄物の広域処理には、さまざまな団体や企業が関わって進行しています。廃棄物

の排出元の沿岸市町村と、受入先となる他県等の自治体をつなぎ合わせ、円滑に廃棄物処理を進行するための連絡調整が私の主な業務でした。そのほか、現地で廃棄物の中間処理を行っている処理事業者や運搬事業者、廃棄物の放射線量を測る測定業者や環境省等、本当に多くの方々と調整をしながら業務を行ってきました。

３．苦労したこと

広域処理を進めるにあたって苦労したこととして、クレーム対応がありました。他自治体との処理契約の締結や実際の処理が開始されたという報道がされるたび、一日に 10 件以上のクレーム電話がかかってきます。福島第一原発事故等での国の対応に対する不信感から行政全体へ不信が生まれており、ツイッター等の情報を根拠に苦情を言われることも多くありましたが、岩手県内でできる限り処理する方針であること、リサイクルできるものについてはなるべくリサイクルしていること、それでも処理しきれないものについて、放射能等の安全性を十分に確認したうえで広域処理をお願いしていること等を粘り強く説明し、なんとかご理解いただけるよう対応していました。

４．おわりに

被災地支援という名目で岩手県へ赴きましたが、岩手県職員の方々には本当に温かく接していただき、公私ともに逆にサポートをしていただくことの方が多い毎日でした。また、東京では味わえない雄大な自然や本当に美味しい海の幸、山の幸をたくさん教えていただき、たった一年で東京に戻ってきてしまったのは少し心残りです。今後は、プライベートで定期的に岩手県を訪ねて被災地の復興状況を確認しつつ、もっともっと岩手県の素晴らしさを発見していければと思っています。